

元気企業
訪問

「宝塚 花の里・西谷」
ブランド協議会

「西谷」ブランドの 特産品を創出し 誇れる故郷の味を 多くの人に届ける



新SAの開設を好機に

宝塚市西谷地区は市中心部から車で数十分という距離にありながら、昔ながらの自然が残る数少ない地域です。海拔約200mという位置にあり、その気候風土は良質の農作物を生み出しています。特に昭和初期から栽培され、かつて生産量日本一を誇ったダリアをはじめとする花の栽培が盛んな他、黒豆や太ネギなども特産物として知られています。

同地区にとっての大きな話題は「新名神高速道路宝塚SA（サービスエリア）」開設のニュースです。西日本高速道路株式会社が工事を進める新名神高速道路「神戸～高槻間」が2018年に開通（予定）するのに伴って整備が進められているもので、西谷の玉瀬地区に開設されることになっています。

この機会を生かそうと15年7月、地元の農産加工グループなど9つの会社、団体が参加した異業種交流組織が宝塚商工会議所を事務局に発足しました。西谷産の農作物を生かして開発した商品を統一ブランドで売り出そうと、まず取り組んだのがブランディングです。ひょうご産業活性化センターの異業種連携相談室の助言を受け、

マーケティングプランナーとデザイナーも一緒になって意見を出し合いました。メンバーで西谷の特徴を掘り起こし、それを基本に統一ブランドを「宝塚 花の里・西谷」に決定し、商標登録も行いました。ブランドコンセプトは「ここから笑顔の花を咲かせます」。ロゴマークは、西谷が持つ4つの魅力が4色の花卉で表現されています。

グループに分かれて商品開発

現在は協議会のメンバーがグループに分かれて商品開発に取り組んでいるところです。協議会会長を務めるネイチャープランニングの石井彰さんは、太ネギやイチゴなどを使ったドレッシングを「奥宝塚菜園ノンオイルドレッシング」のネーミングで発売予定。他のグループでは、桑の葉を使ったスイーツや穴子の花寿司、蜂蜜などの開発が進んでいます。石井さんは「ドレッシングには蜂蜜を使わせてもらっており、メンバー同士の協力も生まれつつあります」

と話します。開発した商品はロゴマークを貼って販売していきますが、今のメンバー以外からも「ロゴマークを使いたい」という要望が寄せられています。白雪ブランドで知られる小西酒造株式会社が、西谷産の山田錦を100%使用して造った純米大吟醸「乙女の舞」はその第1号商品となりました。

今年6月、「宝塚 花の里・西谷」のロゴマークをデザインしたのぼりを立て、展示会に共同出展しました。「どうなることかと恐る恐る出てみたのですが、百貨店や量販店のバイヤー、ネットショップなどから関心を寄せてもらいました。その地域らしさを出していけば売れるかもしれないという自信をつかむことができました」と石井さん。「商品ごと



毎月開いている協議会の会合

に販路開拓を進めていく一方で、百貨店の催事などでは西谷ブランドとして共同で店を出し、ブランドの認知を図っていきたい」と話しています。

協議会のメンバーの意見はさまざまで、異業種交流組織での事業は苦勞を伴うこともありますが、「西谷の特産物で作った商品をより多くの人に知っ

てもらいたい、手に取ってもらいたいという思いは皆同じ。買った人が五感で喜んでくれるような商品を発信していきたい」と目標を語っています。

協議会概要
「宝塚 花の里・西谷」ブランド協議会

所在地 宝塚市栄町2-1-2 ソリオ2 6階宝塚商工会議所内
会長 石井彰
TEL 0797-83-2211

支援メニュー講座

異業種交流活性化支援

ひょうご発のイノベーションを起こそう!

異業種交流活性化支援事業の概要

(1) 対象事業

異なる業種の中小企業者等で構成されるグループが実施する新分野進出、新商品・新サービス・新技術開発、販路開拓等をテーマにした異業種交流事業

(2) 支援の内容

①異業種交流事業に必要な経費の補助（県補助金）

- ・補助期間：2年以内
- ・補助額：1グループあたり上限額1,500千円／2年間（補助率：定額）
- ・補助対象者：県内の商工会議所、商工会、兵庫工業会、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業を中心メンバーとして活動する異業種交流グループ

②ひょうご産業活性化センターによる各種支援の実施

- ・相談窓口の設置（異業種連携相談室）
- ・各分野の専門家（製造・販売・金融・技術・デザイン等）からなる異業種連携アドバイザー等による専門的な助言の実施
- ・異業種グループの連携・交流促進（活動事例報告会、交流会、課題解決実践セミナー等）

問い合わせは ひょうご産業活性化センター創業推進部 異業種連携相談室 TEL 078-230-8803